

# キャリアコンサルティング技能検定1級 学科・論述・面接試験 体験記

平成 29 年 3 月 30 日

1 級受検番号 N003F1120046 氏名 YM (東京 在住)

<b>■ 1 級技能士を目指したきっかけ</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・チャレンジ・キャリアの深い世界への追求心・冒険心・先達キャリアコンサルタントへの畏敬・憧れ</li><li>・自己研鑽・価値・質向上</li><li>・自己のキャリア形成(活動の場を求めて) (同志・後進に、何かお役に立てることはないかの手懸り)</li></ul>
<b>■ 当初の勉強法</b>
2 級技能士受験 (学科必須になりました) のために「キャリアの青本」、「過去問集」、「キャリアの赤本」を使い、過去問をベースに学習をしました。特に学科については、学習したことを忘れないうちに、その延長上に 1 級の学習に取り掛かりました。田中春秋先生の問題集の講義を受講・事例指導 DVD を視聴したり、キャリアに関わる厚生労働省の労働経済分析や政策レポートなどを随時チェックして読みました。
<b>■ 合格のきっかけ</b>
試験実施概要・細目・評価区分を、腑に落ちる段階まで理解しようと取り組みました。専門家としての CC の役割を紐とぎ、何ができるか、どんな支援・アプローチが望ましいかなどを、1 級技能士の会の「論述三昧」や「ロープレ三昧」を受講したことです。論述は、講座で、試験で求められるもの、必須・選択問題の解き方を学んだこと、時間のマネジメントが大切だと意識できました。面接 (ロープレ) は、目の前の事例相談者に全力で集中して、この人はどんな風に考えてどんなアプローチで面談を進め、どこをどう改善したいと考えているのかを理解しようと心がけました。「一般化」と「面談のプロセス」を大事にして、事例相談者自らの気づきを最優先した流れになるよう (育成視点) 注力しました。事例相談者がピンと来ない感じの反応がみられた時には、ストレートに事例相談者に確認するため訊きました。
<b>■ 学科試験の勉強</b>
別掲してあります。
<b>■ 論述試験対策</b>
別掲してあります。
<b>■ 面接試験対策</b>
論述と同様に、評価区分を理解することからはじめました。論述の場合は、時間内で解答を作成するタイムマネジメントを体得する必要があります。ロープレの場合も、30 分の面談の進め方や展開を踏まえたタイムマネジメントが必要ですが、「ロープレ三昧」を受講した時、初対面の受講生と初めてロープレ 30 分+口頭式問 10 分のリアルな 40 分を体験しました。当初は、タイムマネジメントがメタメタな状態で、当然「一般化」もままならず、「冷や汗体験」したことは、とても貴重な経験でした。その後は、先輩 CC と指導者役と事例相談者役の役割を交代しながら 3 ケースについて一通り練習し、検討しました。試験直前や前日は、1 人でのイメージトレーニングで練習しました。
<b>■ 受検される方へメッセージ</b>
私は、論述試験の際、必須問題と選択問題の解答用紙を間違えて解答し始めるという、とんでもないことをしてかき、慌てて転記して、選択した領域の O をつけたかどうかまったく記憶が消滅してしまう状態でした。試験開始と同時に、落ち着いて必ず確認してください。 論述試験でも面接試験のロールプレイでも、タイムマネジメントは、とても大切です。面談では、事前にいろいろな反説や見立てをして準備し、様々なシミュレーションの下でロープレを練習されることと思ひ

ますが、受験当日は、自分の受験に立ち会ってくれる目の前の事例相談者さんに対して、一旦まっさらな状態にして向かってください。この事例相談者はどんな面談をされたのか、どのように支援しようとされたのか、どう思ったのか、どんな反応があったのか、などなど、自分がわからない部分については遠慮したり、放置したままにせずに丁寧に確認しながら、事例相談者の言葉を大切にしながら、育成的な視点を忘れないで、関係構築を深めることができると良いと思います。ロープシのケースの記述と実際の事例相談者の発言では、「あれ。ええー」がありましたが、事例相談者が面談で話していることに集中して対応しました。